



平成28年11月1日現在

総世帯数	1,482世帯
総人口	2,735人
男	1,281人
女	1,454人

少子化・地域コミュニティの衰退に思いこよ

中条東第一町会 西村 好寛

日毎に寒さが加わる今日このごろです。先日、公民館報に載せる記事の依頼を受けましたので、日頃写真を整理している中で昭和36年6月の中条東一区の子どもの集合写真が出てきましたので記事の題名としました。55年前の写真になります。子ども会のレクリエーションで薄川金華橋付近に行った時のものです。



中条東一区の子ども会 (昭和36年6月)

少子化という言葉とは無縁な子どもの多さです。一声かければ多くの子ども達が集まりました。今日では町内で子

ども達を見かける事がなく、少子化で単に子どもが減っただけではない地域コミュニティの衰退を意味しているのではないのでしょうか。コミュニティの変容が見られる様になった昭和40年頃から45年の間の経済成長が人口分布を大きく変容させた事で、都市への人口集中など様々な弊害を生み、更に交通渋滞、居住環境の悪化、自然環境の喪失、単身者の増加や核家族化「夫婦と未婚の子どもで成り立っている家族」を急速に進ませた事で地域のむすびつきや絆が弱くなってしまうかと思えます。

昭和55年以降の事を思い出してみてください。生活スタイルの変化で車を持てる様になり、車を利用して郊外の大型スーパーにまとめ買いの買物に出かける等で中心市街地の商店街が衰退し、閑散としたシャッター通りとなり地元は活気に乏しいを与えてきた年中行事等に支障が出だし、灯が消えてしまった商店街や

防災訓練とレクリエーション

長沢町町会 太田 賀夫

10月2日は、朝から雨が降る肌寒い日でした。毎年開催している「防災訓練とレクリエーション」を第二地区公民館にて実施いたしました。

目的は災害時の対応と町内の人と団結を高めるためにレクリエーションを実施していきます。内容は、①消火器の使用(方法) ②消火器の使用期間の見方 ③三角布の作り方(最近使用しなくなった風呂敷にて) ④担架の作り方と使用方法(毛布) ⑤災害時の町内集合場所の確認 ⑥避難場所の確認。

町内には家族と離れて生活しているひとり暮らしの人が多いため、日頃の会話の中で集合場所・避難場所を家族に伝えておくことも必要です。

アーケード街を見ると非常に寂しく、過去のにぎわいを思い出します。

これから先、コミュニティの維持が困難とならない様にできる事から取組み、生活を支える公共サービスに安定財源の確保をお願いしたいと思います。

災害時の行動は、「お・は・し」です。「おさない・はしらない・しゃべらない」とさらに「もどらない」ことも大切です。

災害時の煙は有毒ガスを含み、高いところに集まりやすいので、手やハンカチ等で口や鼻をおさえて低い姿勢で避難をしましょう。災害時の一番大切なことは、自分の体を守り安全な場所に避難することです。

防災訓練終了後は、日頃の運動不足解消と町内の人々との会話のためにゲーム(レクリエーション)を実施し、防災の認識を高めて、町内の人々と会話し明るい町づくりをすすめていきたいと思えます。



レクリエーション)を実施し、終了後は食事しながら、ゲームの成績発表をして景品(家庭用品)を差上げています。

日頃、会話の少ない町内の方々と会話し、楽しい時間を過ごしました。これからも「防災訓練とレクリエーション」を実施し、防災の認識を高めて、町内の人々と会話し明るい町づくりをすすめていきたいと思えます。

松本山雅FC健康講座 開かれる



去る9月29日、第二地区福祉ひろばにおいて、山雅FCスタッフと共に運動する会が開かれた。運動後は記念撮影や選手のサイン入り色紙の抽選会等、楽しい会となった。





大正は一歩の音色に
秋が深まり...

第19回 第二地区 文化祭

11月12日(土)・13日(日)



今年も澄んだ音色に
魅了されました



ただいま修行中...

百里を行く者は
九十里を半ばとする



今年も力作がそろいました



公民館長さんと仲良く見学

上高地ウォーキング

「山の日」が祝日になり、山に対する国民の関心が高まるなか、十月十二日に上高地紅葉ウォーキングが行われた。四十年ぶりに行く上高地はどんな姿になってるだろうと期待をしながら参加した。

道路が整備され快適になり、その昔、難所であった釜トンネルを抜けると快晴の空に焼岳、西穂高岳、奥穂高岳、明神岳、コースに点在する大正池、田代池そして梓川の清流が目の前に広がった。紅葉は温暖化のせいか今一步のところであった。

第一地区 防災訓練

本年度の第一地区防災訓練は「自分の身は自分で守る」を念頭に、災害に対する基本的な対処方法について行われた。

消火器の扱い方・消火器の届く範囲等の説明、怪我人を運ぶ担架を家庭内で作る方法、運搬方法、AEDの使い方、煙が充満するハウスに入る煙道体験などを行った。

最近災害が各地で起き、大



きな被害が出ており、いつでもどこで、どのような事に遭ってもかからない。その様などきに少しでも役に立つようにしておきたい。



自然を満喫する人、自分の人生の出発点にする人、絵を描く人、山に登る人、それぞれ山の恩恵に感謝をし、自然に向き合うことが大切ではないか。帰りのバスを見送るかのようには猿の集団が現れ、自然と人間と共存が深く必要と感じました。

すすき川

師走がやってきた。いよいよ日が短く寒さに向かうこの季節、やってくる厳しい日々を暮らしていかなければと思いに、心身が身構えて緊張している。

寒波が来る前に、あれもやらなくちゃと気持ちばかりが先を行く。冬が来てしまえば「今日はなんつう凍みだい」などと言いつつ、信州人の知恵と工夫で結構楽しく暮らしていくことができるのに。冬直前の今だけが、何故かやけに苦しい。

きつと、日に日に弱まっていく太陽のせい。動物たちも植物たちも同じ気持ちだろう。いっそ、冬の間冬眠してしまえたらいいのに、など不埒なことを考えてみる。

クリスマスがこの季節を彩ってくれるのは、クリスマスチャンでなくても子どもでなくても、本当に嬉しい。もともとは冬至のお祭り、太陽の輝きが戻ってくることへの感謝の祝いなのだ。

日本列島は今年もいくつもの天変地異に見舞われた。自然に翻弄されるちっぽけで弱い人間だが、日の光を喜び、諦めず暮らしたい。(齊藤)